

平成23年度 第1回宇都宮都市交通戦略推進懇談会 議事録

日 時：平成23年6月3日（金）10:00～11:30

場 所：宇都宮市役所14A会議室

出席者：委員20名 ほか

開会

会長選出

- ・森本委員を会長に選出

会長挨拶

- ・引き続き、会長という重責を担うことになった。よろしく願います。
- ・3月11日の東日本大震災により交通インフラに大きなダメージを受け、社会資本の限界や公共交通の重要性を再認識した。この状況を真摯に受け止めながら、車に依存するのではなく、徒歩や自転車を含めた様々な交通機関があることが強いまちをつくっていくと思う。
- ・戦略をどのように運用しながら安全・安心な宇都宮をつくっていくのか活発な議論をいただき、一歩でも前進できるように協力をお願いしたい。

議事1 宇都宮都市交通戦略の評価について

事務局

資料1「宇都宮都市交通戦略施策評価票」を基に説明

会長

- ・ただいまの説明に関して、ご意見やご質問はあるか。

委員

- ・自転車道の整備について全て完了したような印象を受けたが、今後どのように進めていくのか説明をお願いしたい。
- ・歩道において、シルバーカー等では乗り越えられない段差がたくさんあり、その解消が望まれることから、整備をお願いしたい。

事務局

- ・昨年度、「宇都宮市自転車のまち推進計画」を策定し、その中において重点取組路線を設定して計画的に整備を進めている。
- ・評価表については平成22年度において2路線の整備を予定していたが、3路線の整備を行

うことができた。平成22年度の整備は完了したが、市全体としては、引き続き整備を進めていく。

委員

- ・新たに委員となった方もいるので、今までの復習と併せて戦略における幹線と支線について説明をお願いしたい。
- ・バス事業者間で「系統番号の統一」は進んでいないが、系統番号を使用しているのは一社だけである。

事務局

- ・市では「魚の骨ネットワーク」と称して輸送量や地域特性に応じたネットワークの構築を進めている。主要なバス路線を幹線とし、幹線に接続する路線や地域内交通、循環線は支線と定義している。
- ・「系統番号の統一」について、バスを利用していただく方にわかりやすい方法であることから、これまで検討をすすめてきた。今後も引き続き進めていきたい。

委員

- ・商工会議所では、平出工業団地や清原工業団地の従業員に中心市街地へ来訪してもらえるようお願いしているが、JR宇都宮駅の東側に住む従業員が多く、中心市街地に来なくても日常生活を送ることができる。
- ・JR宇都宮駅の西側へ行く場合は、線路が妨げとなっていることから、東西の交通を円滑化する事業を計画に位置付ければ、中心市街地の活性化の一つの要因になるのではないか。

事務局

- ・「車や公共交通等が円滑に通行できる道路を整備する」という施策の体系があり、この中で東西の円滑化も含めて検討していきたい。

委員

- ・道路整備箇所について、愛称や市道名では場所がわからない路線があるため、地図に落とすとわかりやすいのでお願いしたい。

事務局

- ・わかりやすく伝えることが重要なので、検討していきたい。

委員

- ・公共交通夜間人口カバー率の定義について教えて欲しい。

事務局

- ・バス停から半径250m以遠の場所と鉄道駅から半径1,500m以遠の場所を公共交通空白地域と定義しており、それ以外の公共交通利用圏域に市街化区域全体の人口の75%の方が住んでいることを示しており、将来はこれを100%にしていきたい。

委員

- ・「市政世論調査」結果を目標指標「交通での移動に関する市民満足指標」の代替指標としているが、市政世論調査の結果は「好きか嫌いか」を示しており、満足度とイコールではないため、代替指標とするのは馴染みづらい。

事務局

- ・指標のうち、隔年で調査するものもあるため、わかりやすい指標で代用した。今後の目標指標の見直しにおいては、わかりやすい目標指標の設定を念頭に置きながら進めていきたい。

委員

- ・公共交通利用者数について、各交通の現状を踏まえ目標達成のためにどのように進行管理していくのか。
- ・地域内交通の利用者は増えており、市民に新たな公共交通を利用していき動きが見られる。これらの利用者がどう増えようとしているか、どこに増える余地があるかを含めて評価すると良い。

事務局

- ・地域内交通については、公共交通空白地域に重点的に導入している。増加分について、普段車を利用していた方が転換を図られたものと考えている。
- ・新たな利用者が増えてきたことから指標に追加した。今後、指標を取る時に新たな情報や具体的な進捗状況も示していけるよう考えていきたい。

委員

- ・中心市街地のイベントに自動車に参加すると駐車場や会場を探すための渋滞が発生している。郊外に駐車場を整備してバスや自転車を利用するように案内すれば公共交通へ利用転換できると思う。そのような視点でまちづくりを検討していくと魅力的なまちになるのではないか。

委員

- ・自転車や徒歩を活用したいが、歩道の整備が不十分で公共交通の乗車口まで安全に行けないため自動車を使ってしまう。大きな道路だけ整備するのではなく、細い道路における歩道の整備もお願いしたい。

委員

- ・レンタサイクルは、台数が少なく昼に行ったら借りられない。この状態が続くと利用者が離れてしまうのではと危惧しており、拡充が必要ではないか。

事務局

- ・レンタサイクルが足りない状況を踏まえ、電動アシスト自転車の導入や宿泊者を対象とした「おもてなしレンタサイクルの導入」など、色々な形で様々な需要に応えられるように拡充していきたい。

会長

- ・戦略の評価はP D C Aサイクル[※]の中のチェックの部分である。いくつかの目標は達成しているが、公共交通の年間利用者数や中心市街地の通行量は減少しており、今の施策だけでは達成が難しいと認識し、次にどのような施策を実施できるかの検討が必要である。
- ・いただいた意見や提案を実施するとどれだけ目標に達することができるか詳細な分析を踏まえながら事業を進めていただきたい。

※P D C Aサイクル：Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（見直し）の頭文字を取った「計画・実施・評価・見直し」を繰り返す継続的な活動

議事 2 宇都宮都市交通戦略施策事業スケジュールの見直し等について

事務局

資料 2 「宇都宮都市交通戦略施策事業スケジュールの見直し等 について」を基に説明

委員

- ・見直しについて内部で検討していくと思いついた意見が出にくいと思う。幅広い意見をいただくような場があっても良いのではないか。

事務局

- ・見直しに関して行政内部で検討するが、国や県の動向を踏まえるとともに、交通事業者の意見を伺いながら検討を進めていく。
- ・公共交通ネットワーク全体の進め方についても市民から意見をいただきながら進めており、今後、このような機会を通じて多くの意見をいただきたい。

委員

- ・パーソントリップ調査は実施しているのか。

事務局

- ・平成4年以降、調査は実施していない。国勢調査結果による市民の移動は把握しているが、具体的な移動については把握していない。通行量調査などを通じながら、できるだけ移動の状況も加えていきたいと考えているが、その辺も交通計画の基本であることから、どういう方法で移動を把握するのか意見を頂きながら、進めていきたい。

委員

- ・平成4年以降、パーソントリップ調査は実施していないようだが、少子高齢化の進展もあり、公共交通利用者の動きは変わっているので、移動の実態を捕捉し公共交通の実利用の高い部分にシフトしないと費用対効果の面からみても問題があると思う。

会長

- ・平成4年のデータを使用して分析するのは限界を超えている。新しいデータを利用して具体的な方向性を提示していただかないと、どのような戦略を取っていくのがよいか判断できない。課題として調査の実施に努力いただきたい。

委員

- ・見直し作業の中で、事業を評価した結果をどのように反映したのか教えて欲しい。更に順調に進んでいる事業も改善点を検討して位置付けて欲しい。

委員

- ・地域内交通のアンケート調査における質問内容について、抽象的ではなく具体化した質問をすれば、回答者の捉え方に大きな違いが生じることはなく好ましい回答が得られる。ぜひ、質問項目の具体化をお願いしたい。

委員

- ・ネットワーク型コンパクトシティを形成するために戦略を策定したものと思うが、戦略だけで行うのは難しく他の計画との役割分担が必要である。
- ・公共交通夜間人口カバー率を向上させるためには、バス路線を開設すればよい話だが、ネットワーク型コンパクトシティを目指すのであれば、公共交通が運行しているところに住んでもらうために都市計画や住宅施策の視点が必要であり、これらの施策をどう取込んでいくかの検討が重要である。

事務局

- ・戦略の策定にあたっては、総合計画の目標とするまちづくりや都市計画マスタープランの都市づくりの方針を踏まえながら、ネットワーク型コンパクトシティを実現するための交通ネ

ネットワークの形成を目差しており、今後も、それぞれの計画と連携を図りながら進めていきたい。

会長

- ・公共交通の便利な場所に住宅団地やショッピングセンターが立地しているかどうかの状況を把握し、土地利用の状況がどのように動いているのか、宇都宮市はコンパクトシティに向かっているのかそうでないのかを議論した中で公共交通や地域の人口はどうなっているかを検討しないと戦略は成り立たない。
- ・スケジュールの見直しについて、意見や指摘をいただいたので積極的な見直しとデータを活用しながら客観的なアプローチが必要である。
- ・外部からの意見を十分に勘案しながら進めていただくということで懇談会として認めてよろしいか。

各委員意義なし

報告 1 宇都宮市自転車のまち推進計画の策定について

報告 2 「うつのみやが目指すまちづくりと公共交通ネットワーク」に関する意見について

事務局

「宇都宮市自転車のまち推進計画パンフレット」を基に説明

資料 3 「うつのみやが目指すまちづくりと公共交通ネットワーク」パンフレットに対する市民意見の取りまとめ結果について」を基に説明

委員

- ・L R T の取組状況を教えて欲しい。

事務局

- ・これまで、東西の基幹公共交通として検討を進めてきたところであるが、L R T について市民から十分な理解を得られているとはいえない状況にあり、まちづくりに本当に必要ななどの多くの意見をいただいているところである。
- ・今回、本市が目指すまちづくりや全体の公共交通の取組について理解していただくため、パンフレットを作成し、意見をいただいているところである。
- ・L R T の賛成、反対を問うのではなく、まちづくりや公共交通への関心を高め、理解したうえで次の段階で具体的にどういう取組をしていくのか、段階を踏んで丁寧に説明したい。
- ・いただいた意見も踏まえ、引き続き市民説明を進めていきたい。

委員

- ・ヨーロッパでは国をあげてサイクルシェアリングに取り組んでおり、日本でも富山等で実施している。宇都宮市では、レンタサイクルが足りない状況にあることから検討する余地はあるのではないかと。
- ・自動車から自転車へ乗り換えてもらう一つの手法として、通勤でも利用できるスポーツバイクの普及が必要だと思う。そのため、スポーツバイクに触れてもらう、知ってもらうきっかけづくりとして試乗会の開催などを検討できないか。

事務局

- ・「宇都宮市自転車のまち推進計画」においても、レンタサイクルの拡充やスポーツとの連携を打ち出しており、戦略の見直しにおいては、多くの自転車施策を位置付けていきたい。

会長

- ・戦略策定後に「宇都宮市自転車のまち推進計画」が策定された。基本的な考え方は同じなので、記載されている内容を勘案して見直しに対応していただきたい。

委員

- ・工業団地への通勤バスの実態を教えてください。
- ・就業時間との関連もあると思うが、震災による電力事情や道路事情があるなかで、東西の基幹公共交通が整備されるまで、企業の責任において運行するのではなく、交通体系の整備をどうするかということを踏まえ、どれだけの車両が道路を占有しているかの分布をよく勘案して、効率的な運行ができるように検討をお願いしたい。

事務局

- ・交通事業者に協力いただきながら従業員用のバスを各企業が独自に運行している。
- ・震災の影響があり、交通渋滞が発生しているのは把握している。戦略の中でも、目的に応じて運行するバスを事業として位置付けており、企業バス等色々なバスを運行していくことを検討していきたい。

委員

- ・地域内交通の財源について企業の協力だけでなく、市の補助や地域の負担があることを理解されない状況で議論されるのは心配である。

会長

- ・多くの市町では、運賃収入で運行経費の3割程度を確保しており、残りを補助金で補填しているのが現状である。財政面について議論していない訳ではなく、財政的な制約を前提にし

て導入の議論を行っている。

委員

- ・県も国と一体となって、地域の公共交通に対して補助制度を活用して援助できるように取り組んでいる。

会長

- ・戦略については、国や県とも連携を図りながら取り組んでいる。また、戦略以外の会議においても、財政的な課題を前提として他市町とも隣接市町とどのような交通ネットワークを構築できるかの議論を行っている。
- ・議事，報告すべて終了したので，進行を事務局にお返しする。

事務局

- ・以上で平成23年度第1回宇都宮都市交通戦略推進懇談会を閉会する。